（2）10 年戦略及び各国個別戦略に沿った協力活動の推進

① 日本 「キャパシティ・ビルディング ワークショップ１： 植物品種保護と UPOV TG1/3 基礎コース」

(a) 日程・開催方法

2025 年 11 月 26 日（水）～27 日（木）・Teams によるオンライン開催

(b) アジェンダ

	時間		科目内容	担当者	所属	部署	役職
【1日め】	-	11:00 ～ 11:05	開会挨拶	田中 弘幸	農林水産省	輸出・国際局 知的財産課 種苗室	室長
11月26日（水）	①	11:05 ～ 12:05	栽培試験の概要	牧野 華	試験・検査部	特性調査管理課	特性調査管理課長
	②	12:15 ～ 13:05	栽培試験における標準品種の役割と専門用語	西川 隆之	試験・検査部	特性調査管理課	主任調査員
	③	13:15 ～ 14:00	審査基準	長島 賢司	試験・検査部	特性調査管理課	品種調査調整役
	④	15:00 ～ 15:45	試験計画と作業計画の作成	渡辺 交	試験・検査部	特性調査管理課	主任調査員
	⑤	15:55 ～ 16:55	対照品種選定	阿部 陽介	試験・検査部	特性調査業務課	品種調査専門役

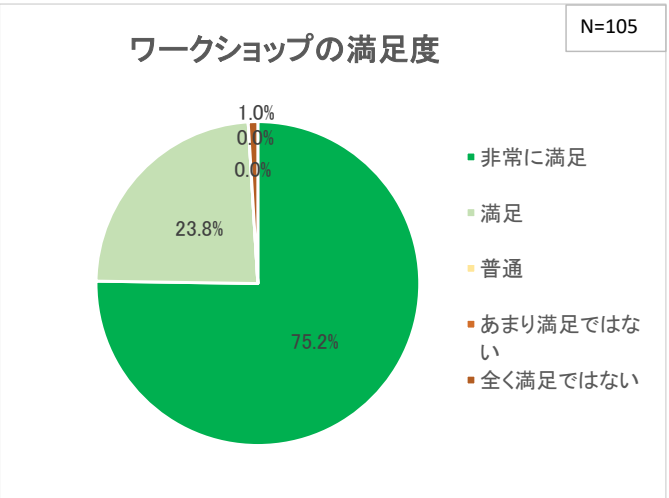
	時間		科目内容	担当者	所属	部署	役職
【2日め】	⑥	12:00 ～ 12:45	ＤＵＳ調査の方法	三國 誉征	試験・検査部	特性調査業務課	特性調査業務課長
11月27日（木）	⑦	12:55 ～ 14:00	報告書作成	三國 誉征	試験・検査部	特性調査業務課	特性調査業務課長
	⑧	15:00 ～ 15:30	撮影技術	小林 健児	試験・検査部	特性調査管理課	主任調査員
	⑨	15:40 ～ 16:40	質疑応答	全員			
	-	16:40 ～ 16:45	閉会挨拶	石丸 彰子	農林水産省	輸出・国際局 知的財産課 種苗室	課長補佐

(c) 参加者

＜受講者＞ 計 145 名 ＜講師等＞ 7 名（上記参照）

(d) 研修生へのアンケート結果： 回答者数は 105 名

ワークショップの満足度



	回答者数	構成比
非常に満足	79	75.2%
満足	25	23.8%
普通	0	0.0%
あまり満足ではない	0	0.0%
全く満足ではない	1	1.0%

参加者の 4 分の 3 が「非常に満足」と回答。「満足」を含めると 99%が満足している。1 名だけ「全く満足ではない」と回答している参加者がいたが、その理由を見ると、「発表者は熱意があり、セッション全体を通して注意を引きつけた。スピードも適切で、速すぎて圧倒されることもなく、遅すぎて退屈になることもなかった」と好意的なものであるため、選択ミスと思われる。

満足の理由（要約）

＜「非常に満足」と回答した人の理由＞

【よかった点】

- 新しい知見・学びを得られた：27 件
- 説明が分かりやすく明確：15 件
- 専門的で丁寧な説明：9 件
- 実務に役立つ・すぐ活用できる内容：9 件
- 網羅的・体系的な講義内容：7 件
- 事前資料の配布及び準備：3 件

【改善点】特になし

＜「満足」と回答した人の理由＞

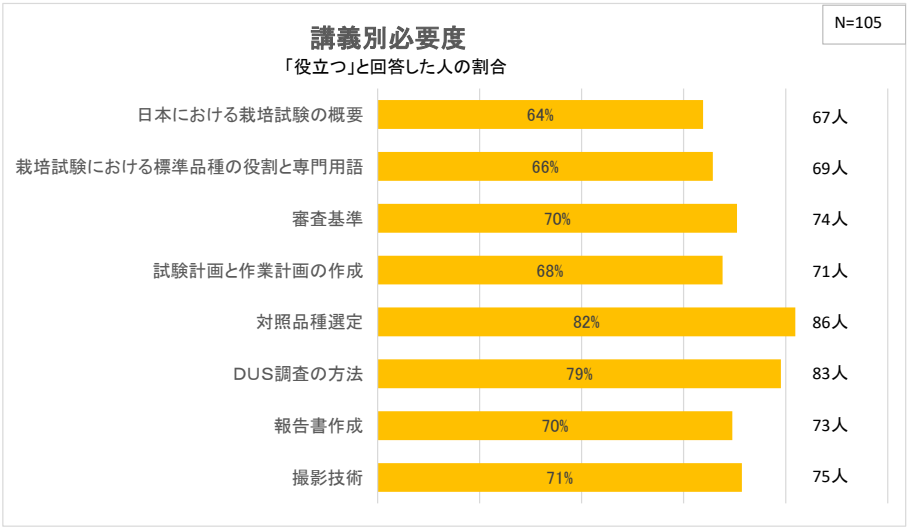
【よかった点】

- 新しい知見・学びを得られた：5 件
- 説明が分かりやすく明確：4 件
- 実務に役立つ・すぐ活用できる内容：2 件
- 専門的で丁寧な説明：2 件

【改善点】

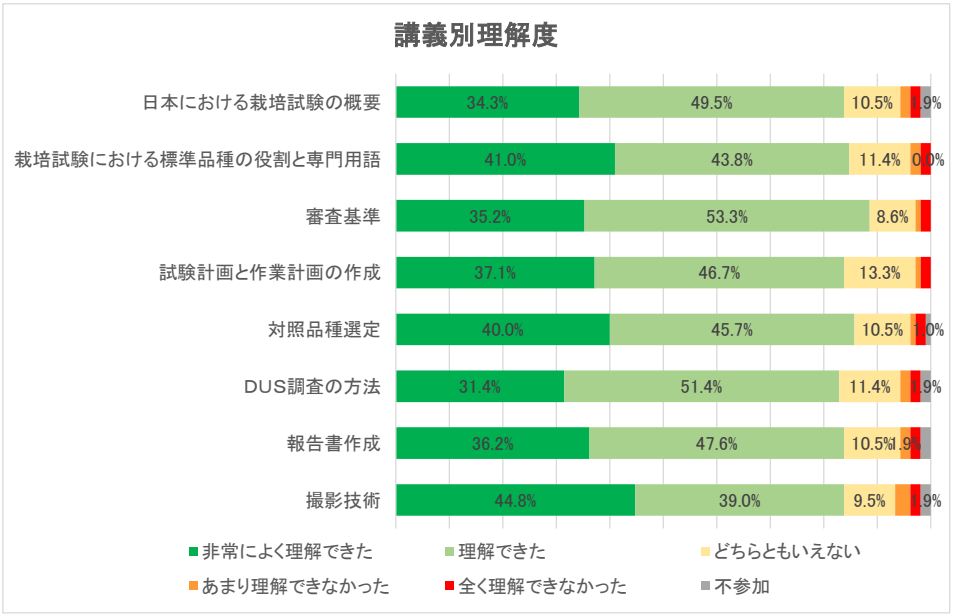
- ハンズオン／実習の追加（4 件）
- 言語・通訳の課題（3 件）
  - -英語がわかりづらい講義があり、内容が理解しにくかった。
  - -日本語の会話が入ると理解が難しいことがあった。
  - -一部の講師はスライドを読むことに頼っていた。
  - -言語サポートがあれば講義はもっと魅力的になる。
- 説明をより詳しく・分かりやすく（3 件）
  - -有益な基礎知識が提供されたが、より詳細な説明と事例があるとよい。
- 動画・事例の追加（2 件）
  - -PVP や UPOV 制度の実務を示すビデオがあったらよかった。
- 対面開催の希望（2 件）
- 画面・配信の見やすさ（1 件）
  - -画面共有の受信が難しく、コミュニケーションに問題があった。

講義の必要度



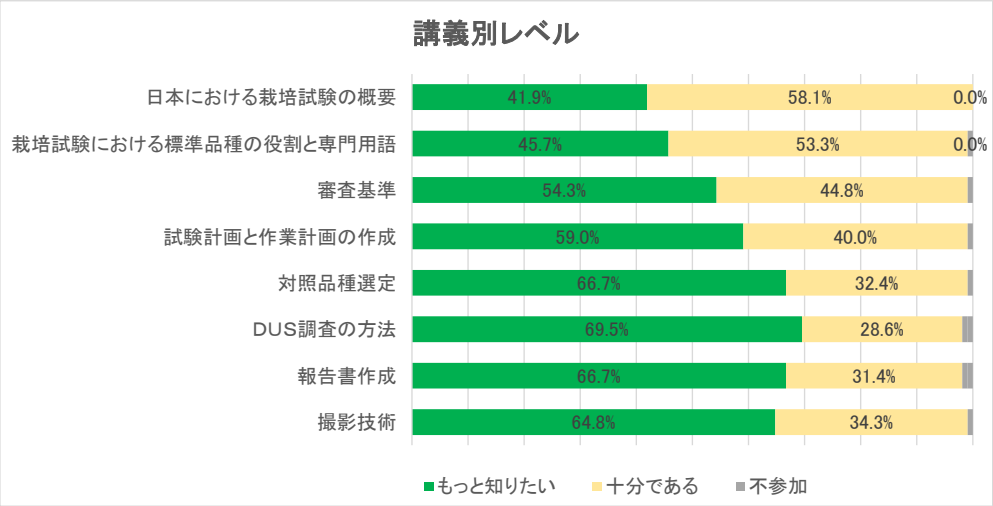
最も「役立つ」と回答した人の割合が高かったのは「対照品種選定」で 82%。次は「ＤＵＳ調査の方法」（79%）。いずれの講義も参加者の 6 割以上が「役立つ」と回答している。

講義別理解度



講義単位での理解度に関しては、「審査基準」の理解度が最も高かった。すべての講義において「全く理解できなかった」と答えた人が 2 名いるが、その内の 1 名はラオスの参加者で「すべての内容が初めてのものだった」とのこと。もう 1 名は中国からの参加者（DUS 試験経験 2 年）だが、コメントとしては「非常に包括的」とのみ書かれている。「撮影技術」は「あまり理解できなかった」と答えている人が最も多く（3 名）、以前に行った事前の課題提出及びフィードバック等の工夫が必要と考えられる。

講義別レベル



「もっと知りたい」講義内容は多い順にみると「DUS 調査の方法」「対照品種選定」「報告書作成」「撮影技術」となり、いずれも 64%以上。

(e) 所感

研修内容については満足度が非常に高く、講師の説明は非常に丁寧で分かりやすかったとの評価が多かった。「非常に満足」の理由には改善点を挙げる人はほぼいなかったが、「満足」と回答した参加者の理由には改善点として、実習の必要性・言語によるわかりづらさを挙げる人が数人いた。審査経験のない初心者の参加が多かったこともあり、実務に役立つというコメントが多かった。内容的には充分であったと思うが、オンラインでの講義の中でも参加意識を高める工夫や、ライブ感を加えると更に満足度が高まったのではないかと考えられる。たとえば、R3 年度のオンライン DUS 研修で実施した、事前に受講者が撮影した写真を送ってもらい、評価を返す、講師がその場で審査するところを見せる等。

(f) 写真



② 日本「キャパシティ・ビルディング ワークショップ２： PVP シニアスタッフ向け技術研修専門コース」

(a) 日程・開催方法

2025 年 11 月 28 日（金） ・Teams によるオンライン開催

(b) アジェンダ

開催日	スケジュール (日本時間)				トピック
Friday 28 November	-	13:00	~	13:05	開会挨拶
	①	13:05	~	13:35	品種登録審査制度について
	②	13:35	~	14:05	品種登録のための電子ツール（VIPS）
	③	14:05	~	14:30	質疑応答、ディスカッション
	昼休み				
	④	15:30	~	16:00	量的形質の区別性、均一性及び安定性の評価における最小距離
	⑤	16:00	~	16:30	他のUPOV加盟国によって作成された外国のDUSレポートの活用方法の学習
	⑥	16:30	~	17:00	質疑応答、ディスカッション
	-	17:00	~	17:05	閉会挨拶

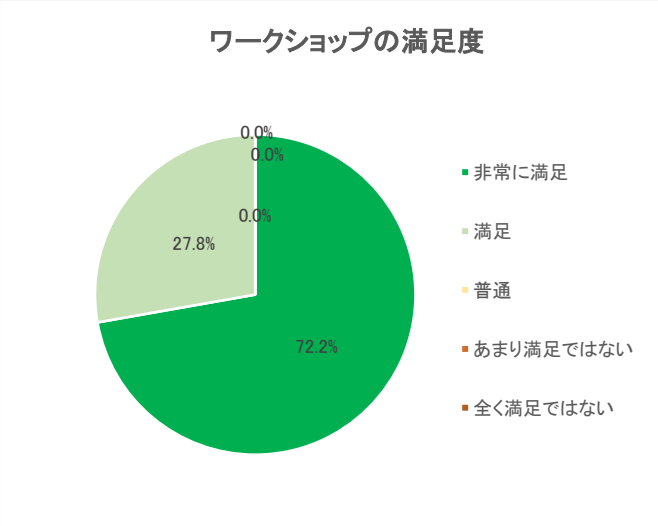
(c) 参加者

＜受講者＞　計 100 名

＜講師＞　　農林水産省 輸出・国際局 知的財産課 種苗室 次席審査官 大野善之氏

(d) 研修生へのアンケート結果：　回答者数は 72 名

ワークショップの満足度



		回答者数	構成比
5	非常に満足	52	72.2%
4	満足	20	27.8%
3	普通	0	0.0%
2	あまり満足ではない	0	0.0%
1	全く満足ではない	0	0.0%

約 7 割が「非常に満足」と回答。「満足」を含めると 100%が満足している。

満足の理由（要約）

「非常に満足」と回答した参加者のコメント

【良かった点】

- 新たな知識を得ると同時に、既存のスキルを磨くことができた。
- トピックと教材は非常に適切で、プレゼンテーションは分かりやすかった。
- 業務上のニーズに合致した内容だった。
- 質疑応答セッションがあってよかった。

【改善点】

- 特になし

「満足」と回答した参加者のコメント

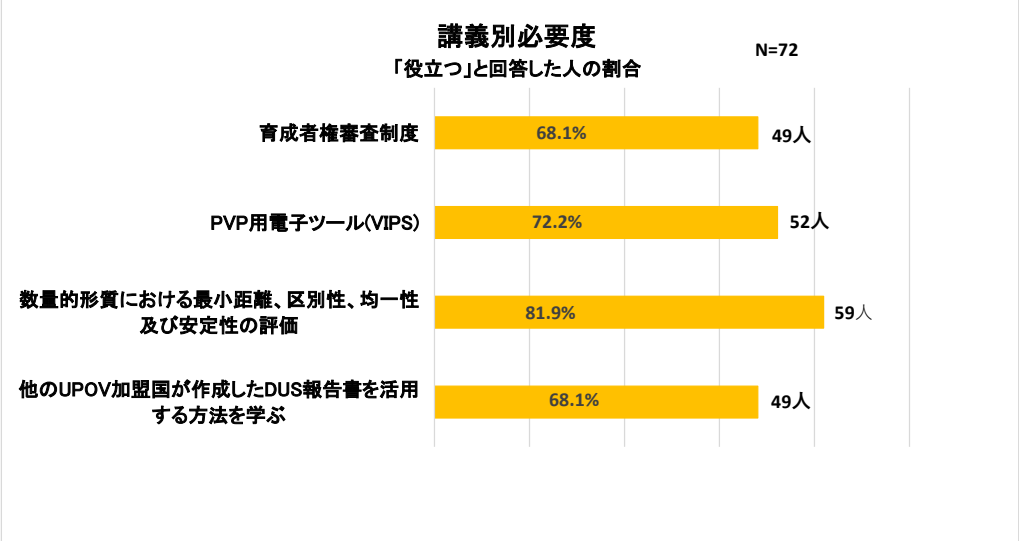
【良かった点】

- 日本の PVP の状況を詳細に説明してくれた。
- ワークショップで議論されたトピックは最新のものだった。
- 自国の PVP の状況に関連づけることができた。
- さらに学びを深め、日本で対面授業に参加したい。

【改善点】

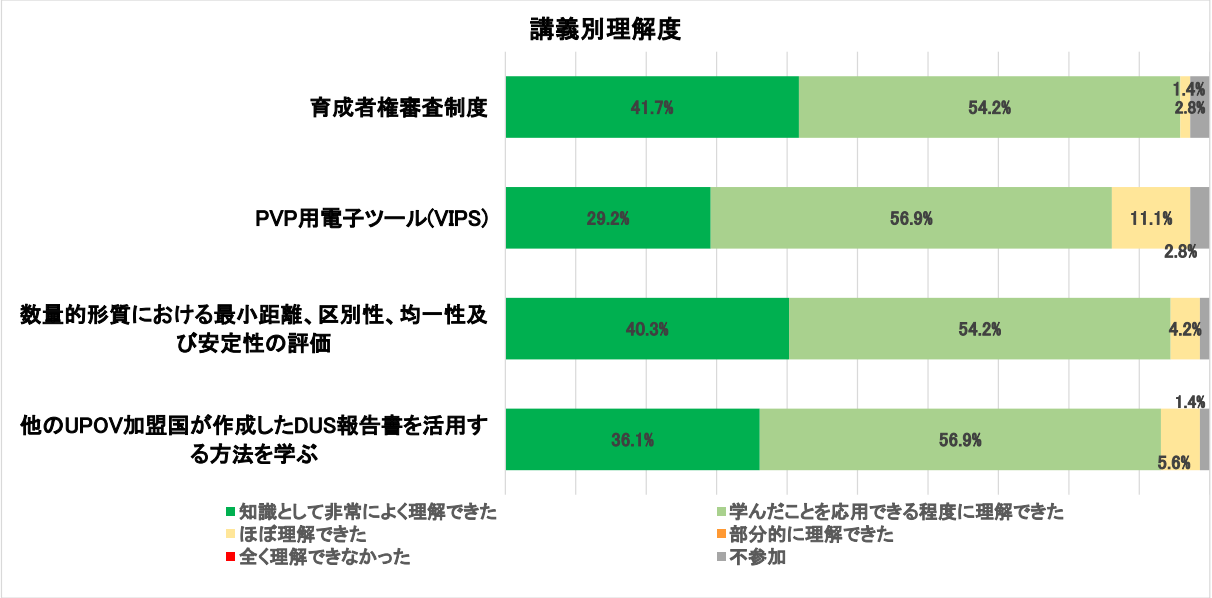
- 時間が足りなかった。
- 実践的なケーススタディなどがあればよかった。
- 特定の作物を選んで掘り下げると良いのでは。
- COYU 関連の話題は難しく、ついていけなかった。
- 講師と受講者双方の英語力の問題で、完全には理解できなかった。
- 金曜日に行われたため、日常業務に支障があった。

講義の必要度



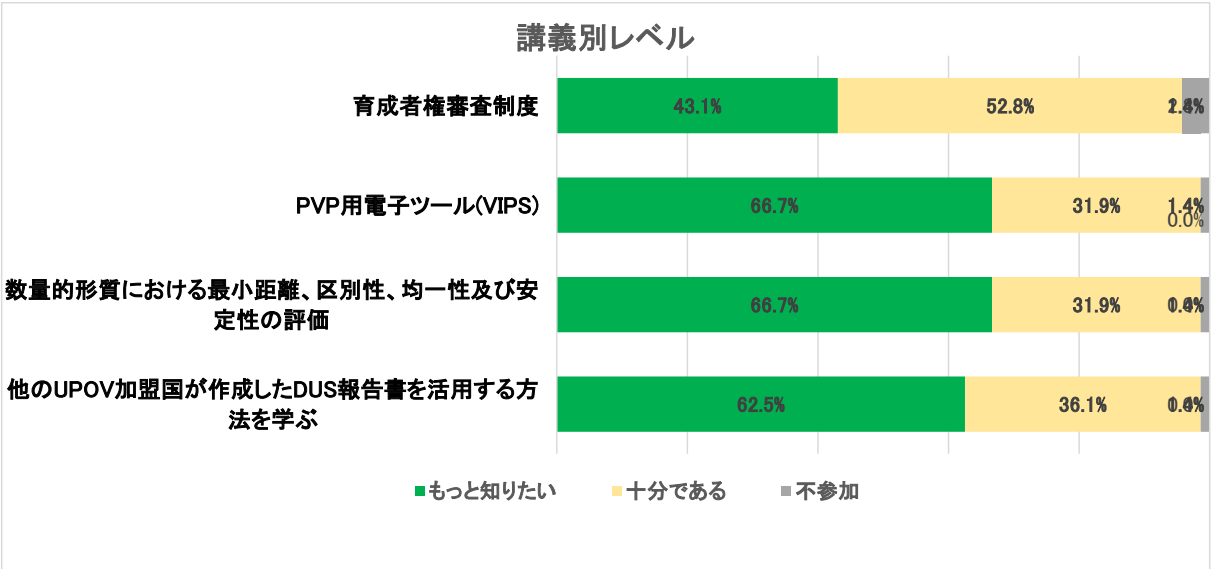
最も「役立つ」と回答した人の割合が高かったのは「量的形質における最小距離、区別性、均一性及び安定性の評価」で 81.9%。次は「PVP 用電子ツール(VIPS)」（72.2%）。いずれの講義も参加者の 7 割弱が「役立つ」と回答している。

講義別理解度



講義単位での理解度に関しては、「育成者権審査制度」の理解度が最も高かった。次いで「量的形質における最小距離、区別性、均一性及び安定性の評価」。「部分的に理解できた」「全く理解できなかった」と回答した者はゼロだった。

講義別レベル

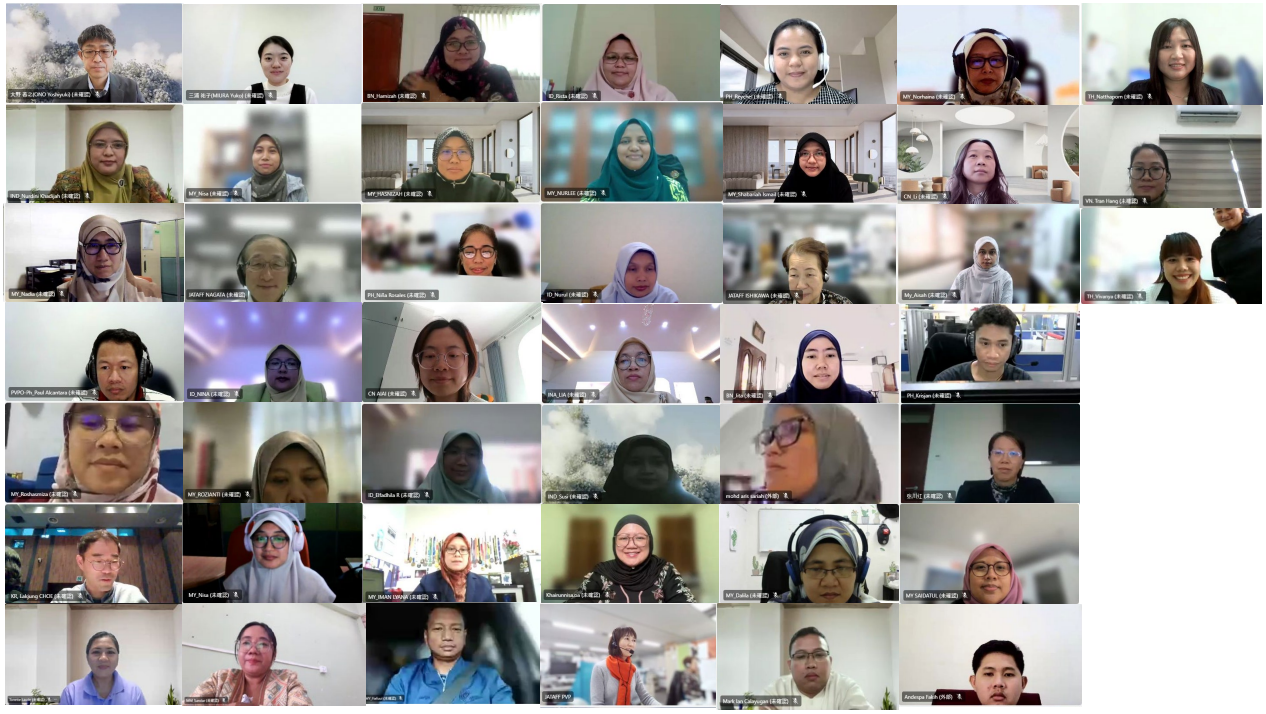


「もっと知りたい」講義内容は多い順にみると「PVP 用電子ツール(VIPS)」「量的形質における最小距離、区別性、均一性及び安定性の評価」「他の UPOV 加盟国が作成した DUS 報告書を活用する方法を学ぶ」の順となり、いずれも 62%以上。

(e) 所感

研修内容については満足度が非常に高く、講師の説明は非常に丁寧で分かりやすかったとの評価が多かった。特に、事前に参加者に「現状解決したい問題」について挙げてもらいそれを研修の最後に講師が 1 つひとつ回答していった点はコミュニケーションの双方向性が高く評価され参加者の満足度を高めたといえる。

(f) 写真



③ ラオス「ラオスにおける UPOV 1991 への加盟に関する国内ワークショップ」

(a) 日程・開催方法

2026 年 1 月 22 日(木)

ソウパットラホテル・ビエンチャンとオンライン(Teams)によるハイブリッド開催

(b) アジェンダ

Time	Subject	Responsible Person/ Speaker	Venu
08:30-09:00	Registration	All participants	Souphattra Hotel
09:00-09:05	Objective and overview of the meeting	MC Mrs. Vilomphone DD of PVP	
09:05-09:15	Remarks by Japanese Embassy （on behalf of MAFF of Japan)	MASUDA Shigeaki, Second Secretary, EMBASSY OF JAPAN IN THE LAO PDR	
09:15-09:25	Remarks by UPOV Representative	Ms. Yolanda Huerta, Vice Secretary-General, UPOV (video message)	
09:25-09:35	Opening Remarks by Department of Intellectual Property (DIP)	Mr. Xaysomphet Norasingh, Director General of Department of Intellectual Property	
09:35-09:50	*Photo session and Coffee break*		
09:50-10:20	Benefits of Plant Variety Protection (PVP) System and UPOV membership	Mr. Yoshiro Nishimura, Technical/Regional Officer (Asia), UPOV	Souphattra Hotel
10:20-11:20	The experiences of UPOV membership of Vietnam and study on PVP in Lao PDR and potential impact of joining UPOV	Presentation by Mr. Minh International Expert	
11:20-11:35	Updates on UPOV Accession of Laos	Mr. Phengthong, Department of Intellectual Property	
11:35-12:10	Discussions	All participants	
12:10-13:30	*Lunch break　move to NAFRI*		
13:30-16:30	Visit to Rice Center	Department of Intellectual Property (DIP). Mr. Minh (Int Expert) Mr. Ueki (JATAFF of Japan)	

(c) 参加者

ラオス知的財産局(DIP)、農林省農業局(DOA)、国立農林研究所(NAFRI)、商標庁、商工省貿易交渉・国際経済協力局、商工省外国貿易局、商工省中小零細企業振興局、特許事務所、在ラオス日本大使館代表者、JICA 専門家など 33 名

挨拶：在ラオス日本大使館、UPOV、ラオス知的財産局

講師：UPOV テクニカル・リージョナルオフィサー西村佳郎氏、VSC ベトナム　Nguyen Thanh Minh 氏、ラオス知的財産局 Phengthong 氏

(d) 報告概要

同ワークショップは、効果的な植物品種保護（PVP）および UPOV 加盟がもたらす潜在的な利益と影響について、政策関係者および業界ステークホルダー関係者に説明を行い、理解を深めてもらうことを目的として開催された。ワークショップは 5 つのトピックによって構成された。トピック 1 では、UPOV 西村氏から「植物品種保護（PVP）制度と UPOV 加盟のメリット」をテーマにプレゼンテーションがなされた。トピック 2 では、「ベトナムの UPOV 加盟に関する経験、ラオスにおける植物品種保護に関する研究、および UPOV 加盟が及ぼす可能性のある影響」をテーマに VSC ベトナム Minh 氏より説明がなされた。トピック 3 では、「ラオスの UPOV 加盟に関する最新情報」をテーマにラオス知的財産局 Phengthong 氏より報告があった。トピック 4 では、参加者同士のディスカッション及び質疑応答の時間。昼食後のトピック 5 では参加者有志がライス・センターを訪問した。トピック 4,5 に関して知的財産局の Vilomphone Phimphasan 氏より後日以下の報告があった。

＜ディスカッション/質疑応答の要約＞

―一部の参加者は、UPOV 1991 への加盟後の経済的影響について懸念を示した。

―ラオスの植物品種保護制度は現在まだ初期段階にあり、登録件数も少ないため、加盟のタイミングについて懸念が示された。

―費用対効果の分析を行う必要があり、育種家や農業加工産業にもたらされる利益に重点を置く必要がある。

―加盟により影響を受けるセクターに対する啓発活動が必要である。

―在来植物品種の保護

・同国南部地域の「マック・チョン」など、絶滅の危機に瀕しているものの、大きな経済的潜在力を有する在来植物品種に関する懸念が提起された。植物品種保護制度はこの問題に対処できるか？

―技術的課題と課題

・参加者からは、国内植物品種の DUS（区別性、均一性、安定性）試験結果の審査能力に関する技術的課題、および加盟後に申請件数の増加が見込まれる将来への懸念が提起された。

―手数料

・UPOV 加盟に伴う手数料について懸念が示された。収益はコストを上回るのか？

―紛争解決および政策上の課題

・将来の紛争解決メカニズム、および農業利用における投資家と農民間の土地譲渡を促進するための政策に関する議論。

・育種家間で紛争が生じた場合、紛争解決の場はどこになるのか？ラオスの育種家は紛争を解決できるのか

＜ライス・センター訪問概要＞

・100 品種以上を研究対象とする現在の稲品種育種プログラムに関する同センターの活動について情報交換を行った。

・ラオス・ベトナム間の MOU に基づき、EAPVPF、UPOV およびベトナムが提供する DUS 試験に関する能力開発プログラムの検討。

・稲作センターをイネの DUS 試験センターとして含める可能性の検討。

（以上 Vilomphone Phimphasan 氏作成）

(e) 写真





④ タイ「UPOV 制度における PVP に関する利害関係者とのコンサルテーションミーティング」

(a) 日程・開催方法

2026 年 2 月 25 日(水)

バヤシタホテル(Bayasita Hotel)　コーンケーン大学内、コーンケーン県、タイ

と Zoom によるハイブリッド開催

(b) アジェンダ

Time	Subject	Responsible Person/ Speaker
08:00-08:30	Registration	All participants
08:30- 09:00	- Remarks by Japanese Embassy（on behalf of MAFF of Japan) - Opening Remarks by DOA - Photo Session	- Mr. Tadayuki Kanenaga, First Secretary, Embassy of Japan in Thailand - Mr. Kraising Choodee, Director of Plant Varieties Protection Office, DOA Thailand - All participants
First Session of the Seminar：Awareness-Raising Lectures and an Overview of the Plant Variety Protection Legal Framework		
09:00- 10:00	International Plant Variety Protection System, the Plant Variety Protection Act B.E. 2542 (1999), and Its Ongoing Legal Amendments	Mr. Pan Pankhao, Expert of PVPO Thailand
10:00- 11:00	Learning and Sharing the Practical Benefits of the Plant Variety Protection System (Breeder)	Dr. Piya Kittipadakul, Kasetsart University, Bangkok (KU)
11:00- 12:00	Learning and Sharing the Practical Benefits of the Plant Variety Protection System (Representatives of Farmers)	Dr. Metinee Srivatanakul, Secretary of the GAP and Food Safety Network (GAP Net)
12:00- 13:00	***Lunch break***	
Second Session of the Seminar：Sharing Perspectives, Experiences, and Key Concepts		
13:00- 15:00	Focused Group Discussion on Seed Systems, Farmer Realities, and Policy Options for Plant Variety Protection in Thailand.(the scope of breeders' rights, farmers' privileges, essentially derived varieties (EDV))	All participants
15:00- 16:00	Interactive Q&A Session and In-Depth Discussion with Participants	All participants
16:00- 16:15	Closing the meeting	DOA Thailand,

(c) 参加者

タイ農業局 PVP オフィス、大学、研究機関、種苗会社、農民の代表者、在タイ日本大

使館一等書記官等計 59 名

挨拶：在タイ日本大使館、タイ農業局 PVP オフィス、
講師：タイ農業局 PVP オフィス専門家 Mr. Pan Pankhao、
カセサート大学 Dr. Piya Kittipadakul、GAP・食品安全ネットワーク事務局長（GAP ネット）Dr. Metinee Srivatanakul,

(d) 報告概要

同ミーティングは、関係者が、UPOV 制度に基づく植物品種保護の原則、利点、影響について理解を深めること及びその成果が国際基準への整合性と、タイ農民の権利および遺伝資源の持続可能な利用といった国家利益の保護とのバランスを取る法改正を支援することを目的に 2026 年 2 月 25 日開催された。ミーティングは 5 つのトピックによって構成された。まず、タイ農業局 PVP オフィス専門家の Pan Pankhao 氏より、「国際植物新品種保護制度、植物品種保護法（1999 年）およびその後の法改正」をテーマに発表がなされた。続いて「植物品種保護制度の実用的なメリットの学びと共有（育種家）」のタイトルでカセサート大学 Piya Kittipadakul 教授からプレゼンテーションがあった。

トピック 3 では「植物品種保護制度の実践的なメリットの学びと共有（農家の代表者）」をテーマに GAP・食品安全ネットワーク事務局長（GAP ネット）Dr.Metinee Srivatanakul が講演した。昼食後、「タイにおける種子システム、農家の実情、および植物品種保護に関する政策選択肢に関するフォーカスグループ・ディスカッション」と題し参加者は小グループに分かれてディスカッションを行った。最後に質疑応答と予備ディスカッションの時間を設け、ミーティングは閉会した。

(e)写真



